

主任 工藤 真由美

部員 長尾 志保, 菊地 和恵, 中田 暁代

目指す児童の姿

自他の運動課題解決のために知識や技能を活用できる

体育科における納得解を導く姿を「自他の運動課題解決のために知識や技能を活用できる」と設定し、研究に当たる。

I 目指す児童の姿について

1 具体として

「自他の運動課題解決のため」とは、個の課題を集団の課題としたり、反対に集団の課題を個の課題としたりして、運動課題を捉えさせていくことである。これにより、自分の課題を解決するために考えたことが仲間を高めることにもつながり、仲間のために考えたことが自分を高めることにもつながる。互いに高め合っていくことで、児童は自分のみならず仲間ができるようになることにも価値を見出していく。

「知識や技能を活用できる」とは、思考力、判断力、表現力等を働かせ、個が感じたコツやカン、知識や技能を活かすことである。体育における思考力、判断力、表現力等とは、自己の能力に適した課題に気付く力、自己の課題を解決するための活動を選んだり運動の行い方を工夫したりする力、思考し判断したことを言葉や動作等で他者に伝える力を指す。

II 研究内容について

目指す児童の姿に迫るために、一年次は研究内容として以下の二点に取り組み、実践的に明らかにしていく。

1 課題を見出していく集団での振り返り

主運動に関する集団での話し合いを指している。課題解決の過程において、主運動での動きについて集団で振り返らせることにより、動きを分析しながら次につながる課題を見出していくことである。次につながる課題を見出すためには、「何のために」「誰のために」といった目的、「何を」といった対象・内容、「どうやって」といった方法の視点を明確にすることが重要である。その際、運動の状況を再現したり視覚化したりできる用具・教具を活用し、上記の視点を基に課題を見出していく。

2 自己の変容に気付く個の振り返り

授業の終末に行う個の振り返りを指している。この振り返りでは、集団での振り返りの後に体育ノート等に自らの学びについて記すことにより、仲間と学んできたことを見つめさせ、自己の変容に気付かせる。変容に気付かせるためには、既習と結び付けて比較させることが重要である。

III 研究・検証方法について

研究方法として以下の二点を取り上げ、研究内容の検証を図る。

- 1 体育ノートや学習カード等の記録、児童の発言記録、録画記録等から児童の変容を分析し検証を行う。
- 2 形成的評価の分析と結果の蓄積をする。

